

南部	・地域で表面化していない課題に気付くためのネットワーク構築のため、地域ケア推進会議を2回開催する。 ・わた史ノート改訂版の啓発に力を入れ、「その人らしい生き方」「価値観」に重点を置いた支援を実施する。 ・地域包括支援センターの周知啓発を推進するため、出張相談会を行うほか、地域のスーパーや薬局と協働して啓発効果が高い企画を考案・実施する。
小牧	1. 制度の狭間の方、8050問題、生活困窮、介護、障害、子どもへの支援等について法人内でも課題を共有し適切な支援にあたる。 2. 重層的な課題（本人や本人の属する世帯が複数の問題を抱えている）を抱える世帯に対して、多機関協働事業の活用、こまきつながる会議への参加などを通し、適切な支援につなげる。 3. 地域ケア個別会議で抽出された課題は、地域の住民にとって身近な問題として捉えていただけるよう、ふくし座談会などの場で情報共有を図る。情報共有にあたっては、個人が特定されることのないよう十分注意する。 4. 西部圏域での地域活動として、西部コミュニティーセンターで季節ごとに開催されるイベントに参加し、介護予防や認知症支援に関する啓発を実施する。 5. 中部圏域での地域活動として、民生委員が不在となる地域の介護予防実態把握事業回答者に対して、アウトリーチで相談を伺い、課題や必要な地域資源を調べる。 6. 認知症当事者の思いを実現するため、チームオレンジの結成、活動を行う。チームオレンジを通じて、認知症になっても住みやすいまちづくりを目指す。
味噌	①味噌圏域内の各サロンに1回以上は参加する。その際、地域包括支援センターのPRや参加者やボランティアへの聞き取りを行い、地域課題を把握すると共に必要に応じて支援に繋げる。 ②地域住民の集いの場の活動を、関係機関や地域住民のボランティアと共同で支援する。
篠岡	・オレンジカフェ等、既存の活動団体や、医療機関や介護保険事業所など多職種が関われるよう働きかけを行い、チームオレンジの立ち上げを目指す。 ・野口の郷や高齢者が集うサロン等で介護予防講話を開催し、フレイル予防の周知啓発を図る。 ・「認知症予防ゲームin篠岡」の定期開催、認知症予防ゲームリーダーや介護予防リーダーへの活動支援などを通じて介護予防の普及に取り組む。
北里	① 地域での集まりの機会や活動が減少傾向にある地域に対して、住民と共に課題を共有し、介護予防の視点で圏域内の介護事業者や関係機関と協力をして講座を開催するなど地域の活動を支援する。 ②「認知症予防プログラム」「みんなの認知症予防ゲーム」の取り組みを、医療機関、薬局、介護事業者等と協力し、地域で展開できるよう連携を図る。 ③認知症地域支援推進員がチームオレンジコーディネーターとして更なる活動機会の充足と地域協議会メンバーの福祉活動をサポートしていく。 ④消費者被害が多発しており、警察と共同し防止策啓発を行っていく。 ⑤歩行分析AIによる歩容や転倒リスク評価を元に運動プログラムを個別指導する介護予防プログラムと医療機関の理学療法士による介護予防プログラムを年間6回ずつ実施する。 ⑥藤島団地地区をモデルケースとし、新たな社会資源としての福祉有償運送サービスを開始し、効果検証の実施と他資源についても検討していく。 ⑦地域支え合い推進員、地域住民、チームオレンジの協力を得て、寺カフェ・子ども食堂の立ち上げを支援する。

（令和7年度小牧市地域包括支援センター事業計画書より抜粋）